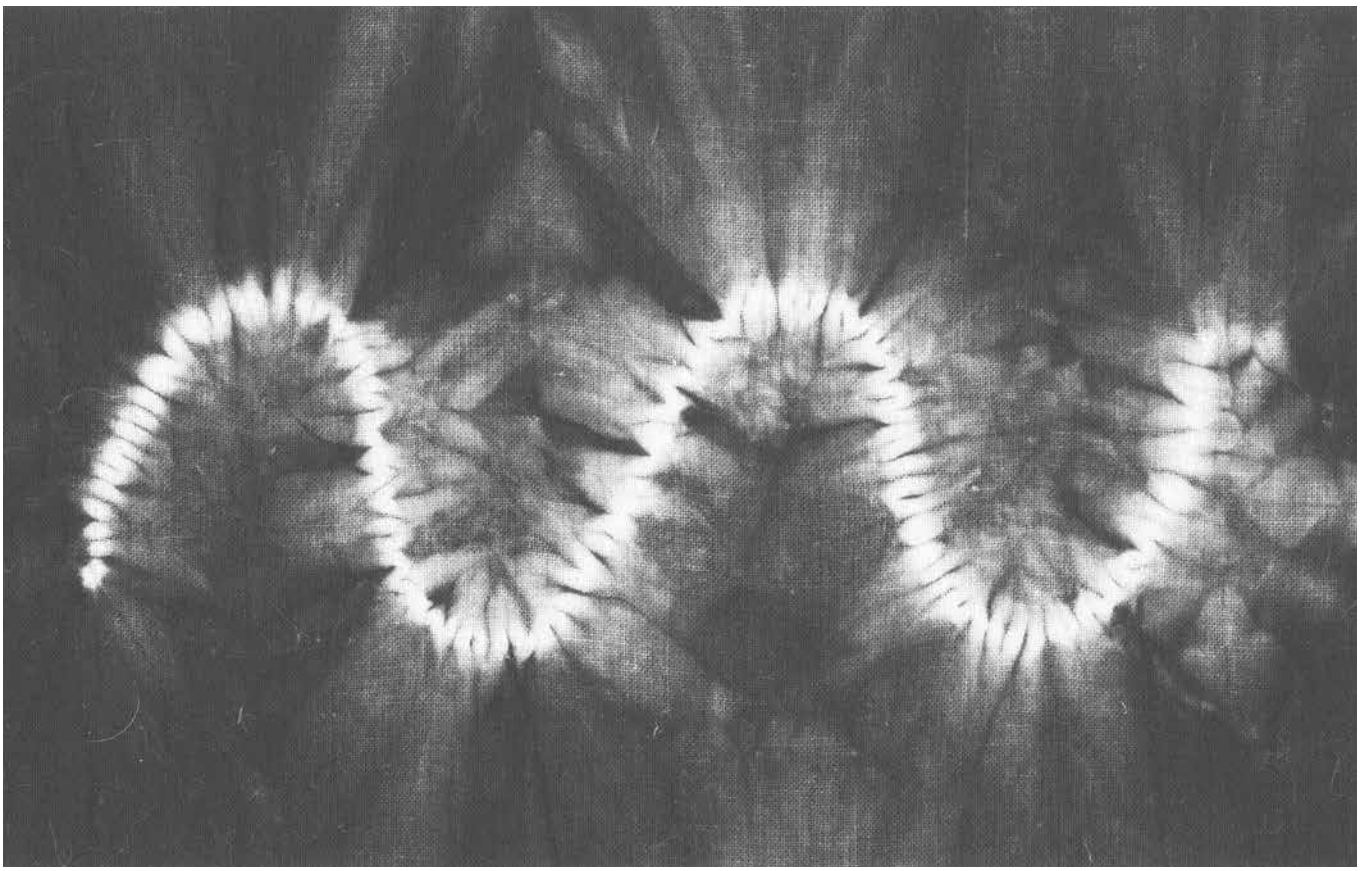
有松

NO.71　有松まちづくりの会



◇ししげ縫い絞り

ししげ縫い絞りとは、線や輪郭を表現する絞り。極言すればただの運針ですが、これを全体に施すと杢目絞りになります。

平縫いの針目は0.3～0.5㎝ぐらいの大きさで、薄地布は細かく、厚地布は少し大きい針目で縫う。また複雑な文様や凸凹の多いところは細かい針目で縫うとよいです。

文様の線や輪郭を、細かく平縫いして引き締める絞りです。

解説：竹 田　嘉兵衛

漆喰

有松まちづくりの会　会長　服部　豊

日本の十六世紀戦国時代が終り、全国各地に於いて立派な城が建造され、その勇姿が各地で今なお残されております。その頃国内では人口の増加と共に木造都市を生み出し、各地に於いて大火を誘発し、故に茅葺き屋根が瓦屋根になってきたのです。当時は漆喰は金持ちのものとされていたが時代の変化と共に白黒の漆喰壁が防火防災の対策として幕府が奨励した塗籠造りの建物が庶民に許される様になり全国各地で広まっていったのです。その後は現在も漆喰壁・海鼠壁が防火・防災・耐震に強いという事で全国的に広がりを見せて各地に於いて古い町並みには必ず引継がれているのです。

その昔漆喰壁は何から始まったかというとツバメやスズメ蜂の巣造りを見習って始まったと言われております。自分の唾液に藁を噛み潰してスサを作り、それを土と混ぜて完成するのを見て漆喰壁が始まったと言われております。漆喰の壁は石灰に牡蠣灰・布海苔を混ぜてそこに麻の繊維や藁を臼で砕いたスサをつなぎとして混ぜ練り上げたもので、これは呼吸をしながら固まって行く、二酸化炭素で固まるのです。まさに漆喰は生きているのです。又その上に防水効果を高め艶を出す為に油を多少混入する場合もあるのです。

古い町並みの歴史を見ると、二百年、三百年前に必ず大火が起きており、有松の町も天明四年に大火によって町が一度消えたのです。その後に於いて東海道に漆喰が多く使用される様になり、約二十年程で町の景観が変化し、壁は塗籠造りになってきたのです。

現在も我々が守り続けている数多くの塗籠造りは二階の窓は虫籠窓として耐火構造となっております。海鼠壁は板塀によらず土壁の崩落を防ぐ為の工法である。

海鼠壁といわれる由来は、平瓦・相瓦の間に出来る目地に漆喰を盛り上げて塗る筋塗りの断面が海鼠に似ているからだといわれている。本当かどうか疑わしい様に思われるが、漆喰という言葉が「かまぼこ」を意味する事は確かである。有松の海鼠壁は一般的には「四半張り」といわれている技法である。

漆喰を語る上、もう一つ大切なものがあるのです。それは「鏝絵（コテエ）」である。鏝絵を調べてみると全国各地の土蔵の正面・扉・二階の側面といろいろな場所に立派な鏝絵が描かれている。鏝絵は十数種類の鏝によって漆喰を使って、動物・植物・家紋・花鳥風月をテーマに作られているのです。

全国的に有名な鏝絵師としては、伊豆半島の松崎町に江戸から明治に活躍した「入江長八」匠が有名である。松崎町には入江長八美術館もある。

九州・四国地方の鏝絵は中国から渡来したものといわれております。又愛知県内では岡崎・渥美半島の田原町にあると聞いております。不思議な事に歴史と文化のある我が有松の町には何処を見ても鏝絵が全然見当たらない。何故なのか理解出来ないのです。

鏝絵は土蔵を飾る一つのステータスシンボルとなっているのです。鏝絵は日本古来の美学であるが、最近は消えゆく「左官職人の技」鏝絵となりつつある様に思います。

現在我々有松まちづくりの会は、文化庁選定の重伝建に向けて準備を着々と進めており、東海道の建物の実測調査も行政・各大学教授の皆様によって約四十軒の調査も終了し、行政と各町内会長様の協力によって各家庭への説明も約百軒廻って戴き、今後は周辺地域へも説明して戴ける処まで進んでおります。最終的には住民の皆々様に重伝建選定に対しての同意書を戴く事となる予定です。その実現に向けて努力していけばその先は町は大きく成長し活性化の可能性は無限にあるのです。必ず優れた結果をもたらす事と信じております。

将来の日本人の美意識と品位をたもつ為、守り続けていけば町並み保全運動も品位を見出す事に満足するだけではなく、日本の都市全体が品位を取り戻す事が出来るのではないでしょうか。

重伝建に漆喰は無くてはならないものです。

有松の歴史的町並みと良好な住環境の継承を目指して

名古屋市住宅都市局都市計画部歴史まちづくり推進室長　中西良尚

■町並み保存地区の見直し

名古屋市では、昨年度より、有松町並み保存地区の現状と課題や今後のあり方などについて、地域の皆様と意見交換を重ねてまいりました。その結果を踏まえ、今年度、有松町並み保存地区の見直し素案を作成し、「有松歴史まちづくりニュース特別号」などで、お知らせしているところです。

見直し素案では、東海道沿い（祇園寺～まつのね橋）において、伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）の導入などを提案していますが、改めて、有松において歴史まちづくりに取り組む意義をお伝えしたいと思います。

■有松の歴史資源

有松東海道沿いに塗籠造りの豪壮な町家が建ち並ぶ町並みは、江戸時代から引き継がれる有松独特の景観で、全国的にも高く評価されています。

名古屋市では、名古屋市立大学・愛知工業大学・名古屋工業大学の3大学と協力して、平成24～25年度の2カ年にわたり、東海道沿いを中心に約40軒の町家の実測調査を行いました。この調査によって、有松の町並みや歴史的環境は全国的に見ても価値が高いことが明らかとなり、重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）として国の選定を受けることが十分可能であることが分かりました。

また、有松には町並みだけではなく、絞りや山車などの伝統産業や伝統文化が残り、歴史資源が豊富な地域となっています。

■現状と課題

これまで名古屋市は、名古屋市町並み保存要綱に基づき、昭和59年より「町並み保存地区」に指定をし、建物の外観に関する基準をガイドライン（努力目標）として定めて、地域の皆様と協力しながら、町並みを保存して参りました。

しかしながら、東海道沿いの町家は徐々に減少しており、今後、東海道沿いの町並みをいかに後世に継承していくかが課題となっています。また、都市計画上の高さ制限が緩い（31ｍ）区域では、今後高層の建物が建つ可能性があり、現在の良好な住環境・景観をいかに継承していくかも課題となっています。さらに、地区全体の人口減少や高齢化が進んでおり、地場産業（絞）や小売業も厳しい状況がみられます。

■有松町並み保存地区の未来像

有松には他のまちにはない本物の歴史と伝統（町並み・山車・絞り）が残っており、こうした「有松らしさ」を大切に継承しながら、まちの活性化を図ることが必要と考えられます。また、「活気あるまち」「住み続けられる環境」の両立を図り、来訪者・居住者がともに魅力を感じるまちを目指すことが考えられます。

こうしたまちの未来像を実現するため、江戸時代から継承される町並みが残っている東海道沿いについては伝建地区の導入、低層の住宅地となっている周辺地域については地区計画の区域の拡大を、地域の皆様に提案しています。

■今後のスケジュール

名古屋市から提案させていただいている見直し素案について、地域の皆様の合意が得られれば、伝建地区制度導入および地区計画区域の拡大の手続きを開始して参りたいと考えております。また、同時に地域の活性化に向けた情報発信や町家の活用などの、まちづくり活動を支援してまいります。

今後も、町並み保存地区の見直しについて、地域の皆様への丁寧な説明に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

●町並み保存地区の見直しに関するご意見やご質問については、歴史まちづくり推進室にお問い合わせください。
（電話　052-972-2782）
●「有松歴史まちづくりニュース」は、名古屋市公式ウェブサイトでもご覧いただけます。
※『有松町並み保存地区の見直し』で検索

短大生の見た有松

名古屋短期大学英語コミュニケーション学科　准教授　辻　のぞみ

去る6月、名古屋短期大学英語コミュニケーション学科2年生の「ツーリズム概論」の授業の一環で、「有松あないびとの会」のご案内により有松の町並みを歩かせていただきました。

参加した30人の学生の中には有松のアパートに住んでいる者（本学には、数は少ないですが、遠方から来て一人暮らしをする学生もおり、有松は彼女らの居住の適地です。）、有松でアルバイトをしている者、サークルの活動で有松絞りまつりに参加した者などもいますが、一方でこれまで有松駅で降りたことがない、降りてもイオンにしか行ったことがないという学生も半分以上いました。そのような学生たちは、学校の最寄り駅からたった一駅、学校から歩いても15分ほどのところに、このような古い町並みがあることに驚いていました。また、小学校の頃に有松絞りを体験したので懐かしかったという学生もいましたが、ほとんどの学生にとって、学校の近くにそのような伝統産業が息づいていたということは初めて知ることでした。

参加した学生からは、「このような歴史ある素敵な町並みが学校のすぐ近くにあるなんてすごくラッキーだと思った」、「電柱や電線がないだけで、こんなに空が広いなんて」、「ほかの歴史的な町にも行ってみたくなった」、「あないびとの会のみなさんが自分の住む町を誇りに思っていることを実感した」、「文化や歴史を大切にしたいという地域の人たちの思いを感じた」などの感想がありました。さらには、「自分の地域の文化や歴史をもっと知り、守っていきたい」、「自分が住む町への恩を考え直したい」、「地元が大好きなので仕事をやめて何をやろうか迷った時には、地元をアピールする活動をしたい」など、自分の住む町を考えるきっかけにもなったようです。

「今度は友達と行ってお店や飲食店にも入ってみたい」という声もあり、実際その後、前期の授業の打ち上げで有松にランチを食べに行ったゼミもありました。

今回、成田会長のほか、3人のガイドの方にご対応をいただきました。次の授業の開始時間の関係で1時間のご案内という変則的なお願いにもかかわらず、どのグループにも同様の質の高いご案内をいただき、「有松あないびとの会」が組織的でプロフェッショナルな対応とマネージメントをされていることに改めて感心いたしました。

学生達の旅行といったら夜行バスで東京ディズニーリゾートに行くか、好きなアーティストのライブへ行くというのが目立ちます。また、歴史や伝統文化への知識不足と関心の低さといった点も気になっています。せめてせっかく本学の近くにある有松という貴重なフィールドを通じて、日本の歴史、景観保護、伝統産業、それらを守る地域の人々の活動への問題意識を学生達に持ってほしいと考えます。また一方では、桜花学園大学と名古屋短期大学全学部学科を合わせたら一、六〇〇人にもなる若い女子学生のエネルギーや感性を、有松のまちづくりやＰＲに生かすことも可能なのではないでしょうか。

ありまつ公園で東海道をひと巡り

ありまつ公園愛護会代表　小澤武夫

本年3月23日にありまつ公園で、二五〇名を超える子どもたちを含む地域の皆さんの参加のもと、ありまつ公園のベンチに填め込まれている「東海道五十三次浮世絵『陶版画』修復完成披露のつどい」が開催されました。

ありまつ公園は、広さ一〇〇〇㎡のミニ公園です。国道1号線から名鉄線路までの間の町並み保存地区にあるただ一つの公園で、有松東海道から北に30メートル、それに有松に観光バスで来訪する皆さんのバス駐車場の脇にあり、いわば東海道沿いの公園です。

このありまつ公園を「有松天満社」「有松一里塚」「祇園寺」「無電柱化された有松東海道と町並み」「有松・鳴海絞会館」「有松山車会館」「街道に点在する絞りを商う家々」等々と並ぶ「有松のシンボル」にしたい、との想いで公園の整備を行ってきました。

ありまつ公園には、有松らしさをかぐわせるものがいくつか有ります（公園入口の礎石、車止め柱、公園北側歌碑など）。それに新たに有松びとの心意気を示す「東海道五十三次浮世絵『陶版画』が填め込まれたベンチ」が加わりました。

このありまつ公園は、観光バスから有松に降り立った人たちがまず目にする場所にあります。有松あないびとのありまつ案内はこのありまつ公園から始まるとすると、その内容は次のようなあないになるでしょうか。

❀ありまつ公園の観光案内ガイドです

皆さん、ようこそ有松においで下さいました。「こんな小さな公園にベンチが11席もあります。なぜでしょう。」「ベンチの下のところを見てください。これは、かつて江戸と京都を結ぶ大動脈であった東海道の五十三の宿駅を歌川広重が描いた浮世絵『東海道五十三次名所絵』を手書きで模写した画を陶板に焼き上げて、このベンチに填め込んであるからです。」「こちらの（観光ガイドの手振りで）江戸日本橋からあちらの京都三条大橋を加えた55枚の絵が11のベンチに填め込まれています。」「皆さんが今立ち寄られている有松は、江戸から数えて40宿にあたる、ここ『鳴海宿』です。この『鳴海宿』に描かれていますのは有松絞りです。有松は鳴海宿の手前の『知立（池鯉付）宿』とのあいだの茶屋集落でした。」「この小さな公園を一回りするだけで、東海道の53宿を10分程で一巡りしたことになりますね。どうぞゆっくりと味わってくださいね」など…。（そして時間があれば続けて）、「私たちが東海道にこだわるのは、江戸から京都の間で、江戸時代のままの道幅、道の曲がりよう、高さ低さという道の姿が残っているのは永〜い東海道の全線では、この有松の東口から西の有松一里塚までの約八五〇メートルだけです。」「江戸幕府の初代将軍徳川家康が命じ、二代将軍秀忠により整備された東海道。幕末近い頃、神戸と江戸を往復した欧米の使節が東海道で一番美しいところ、と賞賛した有松をいまからご案内します。」こんな調子でどうでしょう。お客さんの有松の滞在時間に余裕があれば、案内者にいろいろ工夫を加えていただくのも楽しいですね。

東海道五十三次名所絵ベンチ（右端が鳴海宿）

❀子どもたちには「東海道双六」を準備

このありまつ公園を地域の子どもたちの遊びの場とお年寄りとの交流の場にもしたい！そんな企画が準備されています。それは「東海道五十三次双六（すごろく）」です。10センチ角の発泡スチロールで作られた8色のサイコロを振って（投げて）、出た目の数だけ進んでいく。途中には「振り出しに戻る」とか「一回休み」「三宿すすむ」などを設けてゲームの要素も加えます。子どもの歓声が聞こえるようですが、木陰になる樹木のない「ありまつ公園」なので。猛暑が去ってからのことと準備を整えています。

平成二十六年
有松まちづくりの会 総会開催される

【総会】

有松まちづくりの会総会は五月十五日㈭午後一時半から有松・鳴海絞り会館において来賓をお迎えし、多数の会員が出席して行われました。議事は次のとおりです。

第一号議案
平成二十五年度　事業報告並びに収支決算書の承認について

第二号議案
平成二十六年度　事業計画並びに収支予算書の承認について

第三号議案
会則の変更について

それぞれの報告および提案が行われ全会一致で承認されました。

来賓ご祝辞を　名古屋市緑区役所区長　柵木厚（ませきあつし）様、住宅都市局歴史まちづくり推進室長　中西良尚様、市民経済局観光推進室長　上田剛様よりいただきました。

平成二十六年度の事業計画の基本方針は「重要伝統的建造物群保存地区選定」の早期実現を進めるため、関係住民による協議会設立等の検討を行います。さらに、名古屋市との密接なる連携を保ちながら「重要伝統的建造物群保存地区選定」を目指しての諸事業を関係住民と意見交換・話し合いを進めます。その重点事業として

一、「伝建・重伝建推進委員会」の定期的開催と活発な討議。
二、有松町並み保存地区を中心とする地域住民の皆様との活発な話し合い。
三、協議会設立に向けての検討等
四、町並み保存に関する情報の収集。
五、名古屋市並びに外部有識者との連携強化。
六、有松を全国に発信するホームページ「有松のまち」の開設。

以上で総会は滞りなく終了しました。

【記念講演会】

総会に続いて「次代の有松歴史観光まちづくりを探る」と題して名古屋学院大学教授　井澤　知旦氏よりご講演いただきました。

世界の観光客は年々右肩上がりで増加し、二〇一〇年には約十億人にのぼっています。

観光客は世の中が安定し、平和でなければ増加しません。また、経済力をつけると、観光に出向くことが多くなります。

観光振興戦略としてビジットジャパンを推進している日本には昨年約一千万人のお客様が来日しています。これに対し、日本人の海外旅行者は約千八百万人強です。

この差をどのようにして埋めたらよいのでしょうか。

国内の主要観光地の例を取上げてみます。

犬山市では一九七三年には五十万人の来場が三十年後の二〇〇三年には十九万人まで減少しています。そこで市当局や町を愛する人たちは町並みの保存、修復に力をいれ、名鉄の観光キャンペーンや新しいイベントの創出などの結果、二〇一三年には四十四万人まで回復しました。

足助（豊田市）では、二〇一一年に重伝建地区への選定をうけたものの秋の香嵐渓紅葉まつりに頼っていた感のある状況から脱却し、個々のイベントを誰が担当するのかまで考えて、年中行事を平準化しその結果、多数の観光客の来場へと結び付けました。

川越市は首都圏の背後人口の集客力やうまい観光ＰＲおよび外国人の集客コンテンツの充実により六三〇万人と増加しています。

中部地方の重伝建地区を比較してみると高山市の約二五〇万人を筆頭に足助、白川村、郡上八幡、美濃市は有松よりも多くの来場者があります。有松は国内客がほとんどで、春の絞りまつりを主として約十七万人といわれています。

では、有松はどうしたらよいのでしょうか。まず、定例イベントを充実させ、それを担う主体をどうするのか、この主体をどのように育成するのか、さらに桶狭間も含めるのか等の課題もあります。

シビックプライド（市民の誇り）という言

葉があります。これは町に対する誇りや愛着を持ち、町の一員としてよりよい町をつくる意識を持つということで、この考えを育成していくことが大事なことです。

さらに、町並みの保全は、「住めること」（清潔であること）「価値が見えること」がなければできない。すなわち魅力の可視化（目で見て楽しめる町並み）が必要です。

有松のまちづくり像は、歴史的町並みや伝統産業である絞り産業からなるエリアの地域住民が「この町を残したいんだ」という共通認識を持つことが重要なことです。

有松観光まちづくりは有松単独ではなく名古屋市内の同様のまちづくりを推進している地域との連携や大学との連携も必要なことだと考えられます。名古屋学院大学も有松を「歴史を継承し観光を育む、歴史観光まちづくり」の研究対象にしたいと考えています。

そして、「知力と行動力の結集」を呼びかけられ、聴講者一同は感銘を受け散会致しました。

（水畑康男）

平成25年度　活動報告

（自平成25年4月1日～至平成26年3月31日）

	行事・事業等	開催月日	備　考
重点事業	伝建・重伝建委員会	平成25年4月～平成26年3月	重伝建に関する勉強会（家屋調査・町並み保存等）と会議 有松まちづくりの会のホームページの制作検討 毎月1回開催、原則は第4月曜日
	名古屋市の行う重伝建に関する各地区別説明会および意見交換会への支援・協力	平成25年4月～平成26年3月	地区説明会（3地区に対し各3回） まちづくり意見交換会（1回）
一般事業	町並みミニ情報紙「有松かわら版」発行	平成25年4月～平成26年3月	毎月1回発行（1日付） 各400部
	町並み研修会	平成25年4月10日	奈良井宿を訪ねて
	会報「有松」発行	平成25年9月 平成26年3月	年2回発行　69号・70号 各2,500部
	有松の「小路名称」決定	～平成26年3月	有松東海道に隣接する古道、小路の愛称を公募・審議し決定
	記念講演会（総会終了後）	平成25年5月17日	演　題「古代の鳴海・大高・有松について」 講　師　日本福祉大学 知多半島研究所所長　福岡猛志氏
	平成25年 定期総会	平成25年5月17日	年1回開催
	かえでの道（有松小学校北側道路）清掃活動	平成25年4月～12月	毎月1回第4日曜　午前7時30分より 但し、12月は2回実施
	定例役員会	平成25年4月～平成26年3月	毎月1回開催、 原則は第4月曜日
	第36回全国町並みゼミ倉敷大会出席	平成25年9月20日～9月22日	つながる地域文化の伝統と創造をテーマ。 全体会議・分科会に出席。 高梁・吹屋各地域等を見学。 10名参加
関連事業	第29回有松絞りまつり	平成25年6月1・2日	有松あないびとの会による町並み案内 有松よもやまばなし第16号作成・配布
	安城七夕まつり	平成25年8月2～4日	有松町並みPRコーナー開催
	緑区制50周年躍動・夢まつり	平成25年8月10日	有松桶狭間観光振興協議会ブース内に有松コーナーを設置 重伝建・地域行事・有松土産等をPR
	晩秋の有松を楽しむ会	平成25年11月16～18日	お茶席、町並み案内、町屋開放、生花・浮世絵展示等
	トコトコ東海道	平成25年11月17日	有松あないびとの会による町並み案内
	加盟諸団体との連携活動	随　時	有松桶狭間観光振興協議会 有松山車会館運営協議会等

平成26年度　活動計画

（自平成26年4月1日～至平成27年3月31日）

	行事・事業等	開催月日	備　考
重点事業	伝建・重伝建委員会	平成26年4月～平成27年3月	伝建・重伝建に関する勉強会・会議および住民の合意形成に関する検討ならびに活動等 毎月1回開催、原則は第4月曜日
	地域住民の集い	平成26年4月～平成27年3月 日時：随時	伝建・重伝建に関する住民の合意形成活動の推進
	町並み保存先進地交流	日時：未定	現地交流会　情報交換会 その他
	伝建対策調査への協力	平成26年4月～平成27年3月	名古屋市・学識経験者・有識者等による各種調査等への協力
一般事業	町並みミニ情報紙「有松かわら版」発行	平成26年4月～平成27年3月	毎月1回発行（1日付） 各400部
	会報「有松」発行	平成26年9月 平成27年3月	年2回発行　71号・72号 各2,500部
	定例役員会	平成26年4月～平成27年3月	毎月1回開催、 原則は第4月曜日
	町並み研修会	平成26年4月17日	京都・南丹市美山を訪ねて
	平成26年 定期総会	平成26年5月15日	年1回開催
	記念講演会（総会終了後）	平成26年5月15日	演　題「次代の有松歴史観光まちづくりを探る」 講　師　名古屋学院大学 教授　井澤　知旦氏
	第37回全国町並みゼミ鹿島嬉野大会出席	平成26年11月7日～9日	テーマ等：未定 九州・佐賀県鹿島・嬉野
	かえでの道（有松小学校北側道路）清掃活動	平成26年4月～平成27年3月	毎月1回第4日曜　午前7時30分より 但し、時期により変更あり
新規	ホームページの開設およびその運用	平成26年4月～平成27年3月	有松まちづくりの会・重伝建および有松町並みの紹介等
関連事業	第30回有松絞りまつり	平成26年6月7・8日	有松あないびとの会による町並み案内 有松よもやまばなし第17号作成・配布
	安城七夕まつり	平成26年8月1～3日	有松町並みPRコーナー開催
	晩秋の有松を楽しむ会	平成26年11月15～17日	お茶席、町並み案内、町屋開放、生花展示等
	記念講演会 全国町並み保存連盟結成40周年記念事業	平成26年11月15日	演題：「街道観光について」を予定 講師：JR東海 相談役 須田　寛氏
	トコトコ東海道	平成26年11月	有松あないびとの会による町並み案内
	加盟諸団体との連携活動	随　時	有松桶狭間観光振興協議会 有松山車会館運営協議会等

まちなみ研修

「かやぶきの里・京都美山を訪ねて」

平成二十六年四月十七日（木曜日）、今年のまちなみ研修は京都美山のかやぶきの里を訪ねる日帰りバス旅行であった。参加人員三十九名は七時三十分きっかりに絞会館駐車場を出発して、伊勢湾岸自動車等を通り京都縦貫自動車道園部ＩＣで降り、更に府道十九号線を北上して安掛（あがけ）で京都と小浜を結ぶ周山街道を横切って美山町北に着いた。約三時間半の旅程であった。

丹波路は桜が満開であった。美山町は京都の北西にある丹波高地のほぼ中央にあり、平成の大合併でいまは南丹市となった。京都市内から六十キロ、福井県境にも近く車窓に映る美山杉は木目と香りと弾性に優れた木質が高く評価されている。

「かやぶきの里保存会」の中野会長さんの案内で最初は美山民俗資料館を訪れた。この辺りは「北」といわれる地域で「かやぶきの里」ともいわれている。標高約三百メートル、日本海に注ぐ由良川（上流は美山川）の右岸・北側斜面に寄り添う集落で戸数五十軒、うち三十八軒が京都北山型住宅の茅葺屋根建築である。この建物を含めた歴史的景観が平成五年、国の重要伝統的建造物群保存地区として選定を受けた。山間の緑濃い森と清らかな水の流れる自然豊かな風景は、まさに日本山村の原風景である。

美山民俗資料館

北山型茅葺屋根建築の特色は、

①入母屋造　一階建で妻入りである。
②壁も建具もすべて板を使う。（土壁なし）
③屋根の千木（棟上の交差木）と雪割通し木
④約二十センのあげ庭

また、母屋では、組み込みの仏壇と神棚の同居や、同じ屋根の下で牛が飼われている。

屋根の葺き替えは部落共同作業ではなく、職人にすべて任せ、一面ずつ四～五回に分けて行う。近年、生活スタイルの変化で囲炉裏をはじめ屋内で薪を使うことが少なく、煙が出なくなり屋根の耐用年数を縮めている。いまは約二十年位か。防火のため、建物ごとに放水銃が設置され、その数六十二基。一斉放水で一千トン、約十五～二十分放水できる。

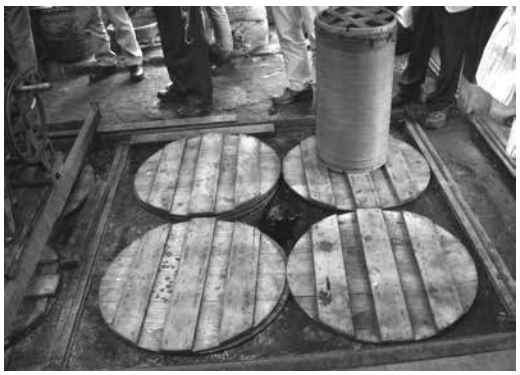
集落の斜面を横に、ほぼ並行して防火用水路と鯖街道が通じている。若狭の海産物を京都へ運ぶ通称鯖街道は熊川宿を通る若狭街道が有名であるが、他にもいくつかのルートがあった。その一つ、小浜から名田庄、周山街道、京都への道がここ美山を通っていた。

昼食は民宿「またべ」で山菜料理を楽しんだあと、「ちいさな藍美術館」へ。世界的に高名な藍染作家新道（しんどう）弘之コレクションと藍甕のある工房を見学した。この日は「嵐しぼり」がセットされていた。軽妙なトークが寛政八年（一七九六）築の茅葺古民家の中で独特の雰囲気を醸し出していた。

この集落の今日があるは惣山（一種の共有入会権）の用益によると思うが、今後は人口の高齢化、過疎化による限界集落化（六十五歳以上が六十パーセント）による共同体崩壊の危機にどう対処するか。大きな課題である。

美山町の著名な人々として、江戸時代前期野々村仁清（京焼陶工）日商岩井（双日）岩井文助（創業者）がいる。なお参考までに福井市にも足羽杉の美山町がある。

（文・写真　丸山忠之）



ちいさな藍美術館　藍甕

町並み調査報告会に参加して

有松の町並みや建物の価値を明らかにする為に平成24年、25年の2か年に渡り行われた町屋の実測調査の報告会が、5月11日、有松小学校の多目的室であり、多くの参加者が熱心に耳を傾けました。

まず、この調査のリーダーである名古屋市立大学の溝口正人教授から、平成24年に31軒、25年に11軒の調査を行い、建物の実測、平面図・断面図、写真による記録、建築年代の履歴の調査、などを行った結果、有松の町並みや建物、歴史的な環境などは、全国的にみても、大変価値の高いものであることが確認できたとのご挨拶がありました。

次に名工大の是澤先生の研究室の学生さんお二人（高橋さん、村松さん）からの報告がありました。高橋さんは、有松の古絵図と文献の分析で、近世、近代以降の移り変わりについてを、町そのものや、宅地、田畑、樹木の変化、御除地（おじょち・免税特権地）が中川橋以西の中町部分であったこと、分筆や合筆が昭和の中期頃までに盛んに行われていたこと等を発表されました。続いて、村松さんは、主屋の小屋組の変遷について、調べた26棟について、時代によって梁の高さや組み方等建築方法に違いがあることを発表されました。

愛知工業大学の岩田敏也講師は、今回の小屋裏調査による棟札の発見により、主屋や土蔵の建立年代が確定できたことをもとに、有松の町屋の特徴を分類され、江戸時代末のものの2階の建ちが低く閉鎖的であるのは近世の規制内に納められているためで、これは天下の東海道ならではの順守であること。維新後は大店がこぞって軒高を上げる改造を行っていて、明治・大正期になると、商売の隆盛も手伝って、他の町屋も大店に追随して軒高を上げ、2階を座敷化し始めるが、基本的には江戸の伝統を踏襲していた為、現在も江戸の町並みの面影が残っていると説明されました。

名古屋工業大学の是澤紀子准教授は、町並みに見られる、石積や石碑、門塀、樹木に関して発表され、建物だけでなく、伝統的工作物が現存することによって町並みの連続性が形成されていること。隣接する建造物の間を繋ぐように設置された塀(18か所ほど)などが、街道の景観に大いに寄与していることを上げられ、歴史的な建造物と社叢が一体となって歴史的、文化的、地域的に価値の高い環境を形成していると話されました。

最後に溝口先生が、町並みはオーケストラのようなもので、街道沿いの伝統的建造物（主屋、土蔵）や屋敷構えの構成物（土蔵、付属屋、樹木）に、生活のための新築建造物をあわせて、町並みにおける役割に応じた保存と継承、更新のあり方を考えていくことが大切と話されました。また、伝建地区指定の場合の、町並みの魅力を評価する視点から有松の場合は、祇園や足助のように「伝統的建造物群が全体として意匠的に優れているもの」にもっとも該当しそうなこと、単に古いものだけが大切なのではなくて、その時代に即したものになっているかが大事とお話になり、昭和50年頃の「有松ゼミ」の資料も交えられて大変興味深い報告でした。

この日の報告会を受け、私たちが大切に思っている町並みが、客観的にみても価値の高いものであるとわかり、後世に繋げていかねば、と改めて胸を熱くし、所有者の方の負担を軽減できる伝建地区制度の早期導入が一層望まれるものとなりました。

（加藤明美）

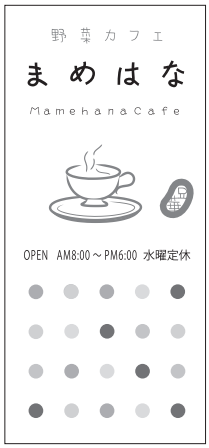
切り絵「有松の町並み（中町界隈）」 豊田信行

町並みの新しい仲間

◆野菜カフェ まめはな　☎052-621-3678

ゆったりとした心地よい時間が流れている有松の旧東海道ではじまる一日。朝は朝粥でカラダの内側から温めて、お昼は野菜がたっぷりなランチでカラダを癒し、午後のティータイムには野菜を使ったスイーツで心を癒す。そんな心とカラダに優しいメニューをそろえたお店がオープンしました。有松・鳴海絞会館内に二〇一四年五月九日にオープンした「野菜カフェまめはな」です。

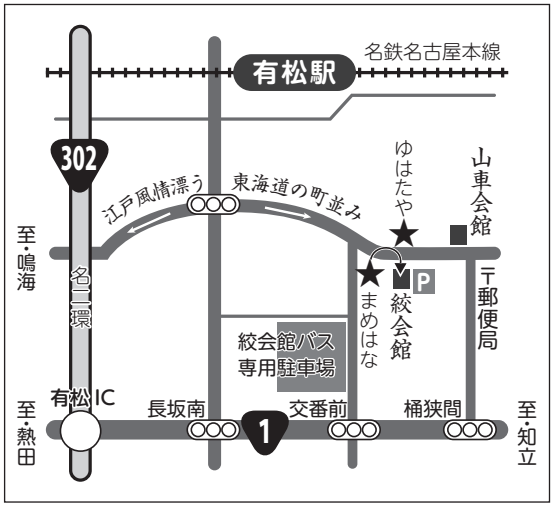
有松にほど近い知多半島で採れたこだわりの野菜やあいちの伝統野菜をたくさん使い、地域の皆様のホッとできるスペースでありたいと思っています。週末には野菜のマルシェ（朝市）も店内にて開催していますので、朝取りの珍しい野菜、元気の出る野菜にも会いに来てください。



店主は野菜ソムリエや薬膳師の資格を有しておりますので、野菜嫌いなお子さんやより健康に活き活き過ごせる食べ方のご提案もさせていただいておりますので、気軽にお声掛けいただけたらと思います。

今後はスイーツバイキングや野菜教室などイベントも開催していきますので、どうぞお楽しみにお越しくださいませ。

住　所　有松三〇〇八（絞会館一階）
営業時間　午前八時から午後六時
定休日　毎週水曜日



◆工房 ゆはたや　☎052-621-5758

絞りからの贈り物

「ゆはたや」は熟年にしてはまだ中身の熟していない未熟な二人が「創りながら売る店」として、この有松町並み保存地区に開店しました。私達二人がこの有松の地で初めて絞りに巡りあってから三十年以上が経過した昨年末のことです。

「ゆはたや」の店名は、絞りの原点に感謝することを忘れないよう絞り染めの古い呼び名をそのまま店名にしました。「君が為ゆはたの絹を取りいでて神にぞまつる万代までに」と堀川百選にも読まれています。

「ゆはたや」を開店以来お客様が他県の知人に地元の物を贈りたいと言われ絞り品を探しに来店されます。そんな時いつも地元の物として誇りをもって贈っていただける有松絞りを創りたいものと自戒を込める瞬間です。

そして絞りに係わるほどに先人の創意工夫から有松に根づいた絞り技術の数々に只々感激し感謝してこの先に継がなければと真摯な気持ちが沸いてきます。

「ゆはたや」は、ぼつぼつ創ってぼつぼつ売ってゆく小さな絞工房ですが創りながら感じたことを生き方にうつしていく喜びはまさに「絞りからの贈り物」と感謝しています。

丁寧な絞工房目指して今日も絞りを創れる喜びを感じて働きます。ぜひ一度足をお運び下さい。お待ちしています。

住　所　有松二三四五（絞会館向かい）
営業時間　午前十時から午後四時三十分
定休日　水曜日（仕入れの為不定休あり）

街角ウォッチング⑦

頼山陽の詩文
～絞り会館前～

頼山陽といえば江戸時代の儒学者として学校でならいました。漢学者であり歴史、文学、美術と多才の持ち主です。特に有名なのは詩吟でよく詠われる上杉と武田の川中島合戦の漢詩「鞭声粛々夜河を過る～」です。

その有名な学者が作った詩が絞り会館喫茶店前の石にきざまれています。扇形のデザインの下地に漢詩が書かれています。その昔、有松を訪れた頼山陽がこの地に立ち寄り一泊しました。その時桶狭間合戦の話を聞き、また美しい絞りやそれを生業として励んでいる有松の人々の様子を見聞きしてとても印象に残ったことでしょう。扇子をひらいてそこに漢詩をしたためたものです。

かつては文人らが立ち寄ると書や絵などを求めたようです。又宿泊のお礼でもあったことでしょう。朝鮮通信使が尾張を通った時などもその宿泊所には揮毫を求める大勢の人が夜を徹してならんだと歴史書にかかれています。この頼山陽の詩文も一夜を過ごした宿の当主の求めに応じてしたためられたものでしょうか？

その詩を見てみましょう。

売絹小市　枕降坻　聞説英雄　此折旆
碧血躙斑　千載在　纈文染上　女児衣
過有松邨　民粥撮　絳為業村　東即桶狭
山陽外史（頼山陽）

この詩の現代語訳は絞り会館入口の壁面にあります。

（文 浅野康子・写真 福岡友一）

第37回全国町並みゼミ
鹿島・嬉野大会

◇日　時　11月7日（金）～9日（日）
◇テーマ
「つなごう歴史遺産
みがこう町並み文化
～有明海で栄えた塩田津と浜宿～」

「有松かわら版」より抜粋

歴史探検「歴史まち歩き」有松と桶狭間で開催（4月20・26日）

名古屋の歴史文化の魅力発見として、「大ヒット商品絞りを生み出した有松」と「天候さえも味方につけた信長の知略が、義元の野望を打ち砕いた決戦の地桶狭間」のまち歩きが、名古屋観光コンベンションビューロー主催で行なわれました。

事前に申し込みをした参加者が有松駅に集合、それぞれのコースを案内人の説明を聞きながら、約2時間をかけてじっくりと見学をしました。有松コースでは17名が参加し、有松あないびとの会の案内で、東の橋爪邸前では江戸・明治・大正・昭和の四時代の建物の違いの説明を聞き、西の祇園寺・長坂道の久田邸まで見学しました。途中、虫干し中の山車会館で布袋車を見てラッキーと声を上げ、中町年行司では紙芝居「庄九郎となかまたち」で有松と絞りの誕生を特別に勉強して、お帰りになりました。

なお、5月にも同コースで有松および桶狭間の歴史まち歩きが行われます。

（加藤一成）

※この「歴史まち歩き」はこれからも実施される予定です。

説明を聞く参加者

晩秋の有松を楽しむ会

～有松のまちじゅうを、いけばな・きもの・アートで彩る～

昨年、天候にも恵まれ、東海道が大いに賑わった晩秋の有松を楽しむ会を今年も開催します。

有松の古い町並み・町家を舞台に、いけばな展、絞りの特別展、お茶席、蔵でのコンサートなど伝統文化にちなんだ各種イベントを開催します。普段一般公開されていない町家に入る貴重な機会です。有松のまちじゅうが、いけばな・きもの・アートで彩られる3日間。あなたも是非この機会に、有松のまちなかで伝統文化を楽しんでみませんか？

期間　平成26年11月15日（土）～17日（月）
　　10時～16時30分
場所　有松町並み保存地区（有松東海道一帯）
主催　晩秋の有松を楽しむ会実行委員会

全国町並み保存連盟 結成40周年記念講演会

◆日時　11月15日（土）14時～16時
◆会場　有松・鳴海絞会館　大会議員室
◆講師　JR東海相談役　須田　寛氏
◆演題　「有松桶狭間観光を街道観光の視点から考える」

◆主な来訪者◆

（あないびとの会ご案内分）

・みよし市生涯学習講座
・名古屋コンベンションビューロー
・秩父・旅は道連れの会
・西区生涯学習センター
・福井県越前市神明地区区長会
・中部古民家再生協会「民家の甲子園」
・鯱城学園・歩いて知ろう会
・守山生涯学習センター
・炎の軍団（消防団）
・アイシン技術会
・犬山・中日文化センター
・みよし悠学カレッジ
・日タク観光バス
・江南こみなみコミュニティー協議会
・名古屋短期大学
・愛知県失語症会話パートナーの会
・岩倉市下本町保健推進員

短歌

風

山田　峯夫

こころ風になりて過ぎし日醸し出す
　連子格子の紺屋店さき
小路にはそれぞれ名あり擦れ違う
　風も一会と思う秋の暮れ
驟雨去り街道に残る溜には
　蝉骸の浮く白雲も浮く

（中部短歌会同人）

編集後記

記録的なゲリラ豪雨や土砂災害、今年ほど自然の驚異を感じた夏は無かったように思います。人間の力のなんとささやかなこと。その小さな力ゆえに、造りあげ、皆で守り抜いてきたものには、愛おしさを覚えるのでしょうか？

有松の町並みは調査の結果、後世に残す価値の有るものと評価されました。これを国のお宝として継承していくための「重伝建選定」はまちづくりの会の発足当初からの夢。この夢の実現が近づいてきたことを実感できるようになってきました。

先人に感謝し、自分自身の幸運を思い、次世代が誇れるよう、ささやかな力を皆で合わせて夢の実現に向かって行きましょう。（加藤明美）

企画編集（鵜飼　満・長塚　啓）

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。

一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。
一、人と人とがつながり、ぬくもりのある有松を創ります。
一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会
二〇一四年九月三十日発行
（年二回発行）
〒458-0924
名古屋市緑区有松三〇一二（有松商工会内）
TEL（052）621－0178
FAX（052）622－7401